

|   |            |             |    |           |
|---|------------|-------------|----|-----------|
| <b>講義名</b>  | 地方財政論      |             |    |           |
| <b>担当教員</b>   | 三原 裕子      |             |    |           |
| <b>開講期・曜日・時限</b>  | 後期 火曜日 3時限 | <b>授業形態</b> | 講義 |           |
| <b>履修開始年次</b>   | 2年生        | <b>単位数</b>  | 2  | <b>備考</b> |
| <b>主題と概要</b>  |            |             |    |           |
| <p>日本は現在、人口減少の局面を迎えており、過疎化を迎える地域、消滅の可能性のある地域、富める地域、そうではない地域と様々です。それに際して、地方はそれぞれの財政により地域住民の暮らしに欠かすことのできない公共財やサービスの提供を行っているため、地域間での格差が存在してしまいます。そんな中、地域独自に地域創生を目指すとしても、地域財政は国からの制約を受けることがあり、非常に複雑なもので運営されているのが現実です。本講義では、国からの補助金のあり方や国と地方の政府間の関係のあり方等について、地域住民の動きを考慮に入れながら、地域財政への理解を深めることを目的とします。</p>                         |            |             |    |           |
| <b>到達目標</b>   |            |             |    |           |
| <p>(1) 経済学の基礎的な知識を身につけ、理論的に物事を判断できる力を養うことができる。<br/> (2) 地域が抱える諸問題について、財政面から分析・評価できるようになるための知識を身につけることができる。<br/> (3) 地方財政および地方公共財の性質を理解すること、中央政府と地方政府の役割について理解できる。<br/> (4) 新聞記事を読み、自分自身で政策の効果を評価するための知識を身につけることができる。</p> <p>* 新型コロナウイルス感染症の感染者、または、濃厚接触者に指定され、一時的に通学が禁止となった学生については、オンデマンドへの移動はせず、その期間のみ課題字修などによって対応します。</p> |            |             |    |           |
| <b>提出課題</b>   |            |             |    |           |
| <p>課題については講義中およびRyuka Portalの講義連絡にて適宜指示をします。</p>  |            |             |    |           |
| <b>課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック</b>  |            |             |    |           |
| <p>小テストや課題は次回の講義始めに解説を行います。</p>   |            |             |    |           |
| <b>評価の基準</b>  |            |             |    |           |
| <p>課題（小テストを含む）50%、学期末レポート50%により評価します。</p>   |            |             |    |           |
| <b>履修にあたっての注意・助言他</b>   |            |             |    |           |
| <p>受講生の理解度に応じて、授業の内容・進め具合を変更する場合があります。<br/> 授業では一次関数、方程式など必要最低限の数学を多用します。<br/> この科目の到達目標の実現のために、毎回出席し、課題を提出してください。<br/> Ryuka Portalの講義連絡等をしっかり確認してください。</p> <p>【対面のみ】<br/> 講義中の録音/録画/撮影は原則禁止します。ただし、やむを得ない事情等により、事前に申し出た場合に限りほかの受講生の妨げにならない範囲で許可します。</p>   |            |             |    |           |

|  |                                      |  |  |  |
|--|--------------------------------------|--|--|--|
| <b>教科書</b>   |                                      |  |  |  |
| .使用しない。  |                                      |  |  |  |
| <b>プリント資料及び参考文献</b>  |                                      |  |  |  |
| <p>レジュメ等はRyuka Portal講義連絡を用いて配信しますので、各自ダウンロードなどして準備をして下さい。<br/> <b>主な参考文献</b><br/> ・佐藤正博『地方財政論入門』新世社、2009<br/> ・林直嗣『財政学 第3版』新世社、2013<br/> ・高澤和俊、徳田克『財政学』新世社、2019<br/> その他参考文献については授業中に適宜紹介します。</p>   |                                      |  |  |  |
| <b>授業計画</b>  |                                      |  |  |  |
| <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地方財政とは</li> <li>2. 地方分権改革と地方財政が抱える諸問題</li> <li>3. 神戸市の現状を財政面から整理する</li> <li>4. 地方財政の機能</li> <li>5. 余剰分析</li> <li>6. 分権化定理(現状の整理)</li> <li>7. 分権化定理(理論的考察)</li> <li>8. 公共サービスの外部性と政府の失敗(1)</li> <li>9. 公共サービスの外部性と政府の失敗(2)</li> <li>10. 地域間の格差と多様性(現状の整理)</li> <li>11. 地域間の格差と多様性(理論的考察)</li> <li>12. ゲーム理論について</li> <li>13. 議院競争(現状の整理)</li> <li>14. 議院競争(理論的考察)</li> <li>15. まとめ</li> </ol> |                                      |  |  |  |
| <b>授業形態（アクティブ・ラーニング）</b>   |                                      |  |  |  |
|  | ア：PBL（課題解決型学習）                       |  | イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態） |  |
|  | ウ：ディスカッション、ディベート                     |  | エ：グループワーク                                  |  |
|  | オ：プレゼンテーション                          |  | カ：実習、フィールドワーク                              |  |
|  | キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合） |  |  |  |
| <b>準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間</b>   |                                      |  |  |  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 毎回の授業内容について、資料をまとめるなど復習を90分程度で行ってください（特に重要な箇所は授業中に指示します）。</li> <li>・ 次回の授業内容についての予習を配布資料を用いて60分程度で行ってください。</li> <li>・ 授業中に講された課題等について90分程度で行ってください。</li> </ul>  |                                      |  |  |  |
| <b>卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連</b>  |                                      |  |  |  |
| <p>目標(1)、(3)を達成することで共通DPに貢献できる。<br/> 経済学の基礎的な知識を身につけ、地方財政の性質を理解することにより、人間、社会、自然に関する学問的成果の基礎を身につけることができる。これを通して、現代社会の諸問題を発見、課題の解決の提案が出来るようになる。</p>  |                                      |  |  |  |
| <b>双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述</b>  |                                      |  |  |  |
| <p>アンケート、小テスト、課題などの回収をクリックカー（Respon）にて行います。</p>  |                                      |  |  |  |
| <b>実務経験の有無及び活用</b>   |                                      |  |  |  |
|  |                                      |  |  |  |
| <b>備考</b>  |                                      |  |  |  |
| <p>【対面授業を履修する場合】<br/> 一時的に通学困難になった場合、オンデマンド授業への移動は行わず、対面授業中での対応を行いますので、ご注意ください。</p>  |                                      |  |  |  |